

- 1 派遣期日 平成28年8月4日（木）～8月5日（金）
- 2 研修先 学校名（会場名） 筑波大学附属小学校
所在地 東京都文京区大塚3-29-1
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>
- 3 研修内容 第18回全国国語授業研究大会
「国語教育とアクティブ・ラーニング」

4 研修内容

（1）公開授業参観及び研究協議

① 4年生における説明文の授業について（筑波大学附属小学校 白坂洋一先生）

単元名 日本の文化について、自分の考えをまとめよう
〔教材名：「手で食べる、はしで食べる」（学校図書4年下）〕

国語の授業におけるアクティブ・ラーニングを、汎用的能力の育成を図るという観点から、多様な言語活動を通して「ことば」を活用し、質の高い深い学びを重視する能動的な学習と捉え、具体的に次の三つの条件を挙げて、授業の実践をしていた。

- ・子どもの問いを引き出し、問いを生かす授業展開
- ・「ことば」を根拠とした、問題解決のための思考過程の重視
- ・共有した目的をもとに、子どもたち同士が関わり合う場づくり

実際の授業では、「日本ってどんな国？」という問いを投げかけ、児童に興味をもたせつつ、黒板を効果的に活用しながら日本と外国との文化の比較を行っていた。日本と外国名が書いてあるカードを、児童に黒板上で動かしながら説明させることで、「文化の近さ、遠さ」を視覚的に捉えやすくしていた。また、教師が切り返しの発問をしながら児童の考えを整理していた点が大変参考になった。

研究協議では、読みたいと思わせる「問い」の必要性、筆者の考えの捉え方、説明文における事例の比較の仕方などについて話し合いが行われ、教材分析の重要性について考えさせられた。

② 3年生における物語文の授業について（山口県下関市立安岡小学校 香月正登先生）

単元名 「ぼく」の変容を読もう 〔教材名：「もうすぐ雨に」（光村3年上）〕

国語の授業におけるアクティブ・ラーニングを、ことばを問い、協働でことばの仕組みを見出し、自分の読みに根拠をもって表現に高めることを学びとして捉え、次の三つの視点を反映させながら授業を実践していた。

- ・【課題性】めあては、子どものものになっているか。
- ・【論理性】教材論理が生かされているか。
- ・【交流性】対話が生まれているか。

「チリン」という音の合図で展開される不思議な出来事に、中心人物の「ぼく」がどのように関わりのように変容したのかを読む授業であった。「ぼくは、動物たちの言葉を信じていますか。」という問いを中心にして児童たちで活発な話し合いが行われていた。児童は、心情を表す叙述に着目しながら自分の意見を発表していた。また、中心人物の心情曲線を児童に描かせ、教師は理由を丁寧に聞いていた。児童の「読みたい」という思いをうまく引き出している授業であった。

研究協議では、物語文の解釈、登場人物の役割と捉え方などについて話し合いが行われた。いろいろな角度から読むことで様々な解釈ができる物語文の面白さを改めて実感した。

③ 3年生における説明文の授業について（東京都大田区大森第五小学校 藤田伸一先生）

単元名 段落の結びつきを読もう 教材名：「いるかのひみつ」（教育出版3年）

児童一人一人に「読みたい」「考えたい」という思いをもたせるために、「言葉刺激」を与える必要があると考え、授業を実践していた。「双活型の説明文の効果捉えの力」を、本時の授業での身に付けたい力と設定し、結論が抜けている教材を提示して、児童の話合いを促していた。児童は、始めの段落と終わりの段落の言葉に着目して話をしてしたが、双活型の説明文であることを捉えることは難しいようであった。

研究協議では、「対話的な学び」についての話合いが行われた。教師の発問によって、児童同士が話題とする事象に積極的に関わっていくことの重要性、発問の吟味の必要性について考えさせられた。

④ 2年生における物語文の授業について（筑波大学附属小学校 桂 聖先生）

単元名 お話のいいところは？教材名：絵本「おまえ うまそうだな」宮西 達也（ポプラ社）

国語の学びを支えるためには、教師のファシリテーション力（集団による知的相互作用を促進する働き）を高めていかねばならないという考えのもと授業を実践していた。国語授業のファシリテーション力としては、次の五つのスキルを挙げていた。

- ・授業のストーリーづくりのスキル
- ・異なる意見を収束的に練り上げるスキル
- ・教室の空気づくりのスキル
- ・主体的な態度を増幅するスキル
- ・多様な意見を拡散的に引き出すスキル

登場人物の二人の関係の変化を「対立的な問い返し」や「ゆさぶり発問」を通して捉えていた。教師は、児童が発言した中の言葉を取り上げ、うまく発問につなげて授業を展開していた。

研究協議では、登場人物の関係性の捉え方、話題を整理し、収束する教師の役割、目的意識の持たせ方などについての話合いが行われた。絵本を活用しての効果的な読みの授業が大変参考になった。

（2）講演 テーマ「教科書がつかない子どもたちとの出会い」 あまん きみこさん

あまんきみこさんが、「白いぼうし」「ちいちゃんのかげおくり」などの作品に関する思いやエピソード、「読む人それぞれの解釈で読んでほしい」という作家としての思いを話されていたことが興味深かった。最後に、「ちいちゃんのかげおくり」を朗読してくださり、とても感動的であった。

（3）ワークショップ「アクティブ・ラーニングで思考力・表現力を促す」

（杉並区立済美教育センター 林 真弓先生）

思考力・表現力を促すアクティブ・ラーニングの授業

↓ 「たい」「かい」があふれる授業の工夫・・・話したい、話したかいがあった

子どもが、考えなくなる・話したくなる（聞きたくなる・書きたくなる）課題や発問の工夫が必要

↓

思考の手立て・・・順序 比較（対比・類比） 因果関係 類推 仮定 分析 分類 一般化

「おおきなかぶ」「ごんぎつね」「やまなし」の授業展開を中心に話合いを行い、物語文の学習の多様性について考えさせられた。

（4）感想

今回の研修を通して、国語の授業におけるアクティブ・ラーニングについての理解を深めることができ、読みの授業における「発問」の重要性や教師の役割などについて考えさせられた。また、読むことの楽しさ、面白さを改めて実感することができ、ぜひ、児童たちにも同じ思いを味わわせたいと感じた。さらに、指導力のある先生方の授業を参観することができ、児童への言葉かけや授業の流し方など様々な点が大変参考になった。今後、研修で学んだことを生かして、充実した国語の授業を行っていきたい。